



通勤電車の中で考えること

東京工業大学大学院総合理工学研究科 山下 敬 郎
(前 分子物質開発研究センター助教授)

分子研には約11年間お世話になりました。所長をはじめ分子研の皆様および管理局の皆様にはあらためて感謝を申し上げます。この間に私が居りました化学試料室が現在の分子物質開発研究センターに改組されるという大変革も経験致しました。化学試料室は助教授1グループだけの小さな組織で化学物質の合成、分析や廃棄物の管理などと業務も限られたものでしたので比較的のんびりとたいしたプレッシャーもなく仕事をさせてもらい、いつのまにか10年近くを経過していました。極低温センター、機器センターの物性部門と一緒にあって現在のセンターがスタートしたのは平成9年4月です。従来の施設としての役割に物質開発研究を行う研究センターとしての活動が加わったわけです。新規物質が物質科学の進展に果たす役割は大ですので、このセンターから研究のブレークスルーにつながる分子が誕生しますことを願っております。

さて、私は4月から東工大に移りましたが所沢市に住んでおり、長津田キャンパスまで片道1時間半かけて通勤しております。JR武蔵野線、JR南武線、東急田園都市線にそれぞれ20分ぐらい乗っておりまして、山手線のずっと外側の環状線を利用していることになります。今までの勤務先は地方都市でしたので、分子研のように住居が近いところは歩いて通ったり、遠い場合でも車で通勤しておりました。電車を使った通勤は初めてのことになります。電車の中の1時間は最初の頃は特に新鮮で、乗客達の様子をながめたり、耳にはいつてくる会話を聞くとともに無しに聞いているうちに目的駅に着いていました。日本の社会の様子も通勤電車に反映しているよ

うで、今の流行も分かるようになりますし、研究者の世界とはまるで違う雰囲気も味わえます。宣伝の雑誌の見出しを眺めていると芸能関係のニュースに詳しくもなります。帰宅する時に夜の9時より10時の電車の方が混むのに気づいて、夜型の社会になっているのだなとあらためて感じました。また、人身事故で電車がストップしたのに3度も遭遇し、社会の暗い面を強く感じさせられたりします。半年以上電車通勤したこの頃はだんだんと読書の時間が増えてきました。しかし、往復の通勤時間の3時間は貴重な時間ですので、もう少し有効に使いたいと考えております。この文章の内容も電車の中で考えましたのでタイトルに使いました。研究の面では電車の中では研究室とまた違った発想がでてきますので、新しいアイデアが生まれるかも知れません。

私の所属しております総合理工学研究科は学部を持たない大学院で、外部から研究室志望の学生を集めてこなければなりません。この点では総研大と似た面がありますが、修士からという点と学生数がずっとこちらの方が多いという点が大きな違いです。自分の研究室には今年度は学生がおりませんが、隣の研究室のにぎやかな学生達を見ていると大学にすることが実感してきます。私の専門の合成化学ではマンパワーがかなり重要ですので、分子研でマンパワー不足で出来なかった化合物の合成を是非実現したいと考えております。